

ほとけの混和会だより

令和三年六月

東光院

仏の混和会

第153号

お変わりございませんでしょうか。

この度の自粛要請さぞお疲れの事と存じます。又、回忌法要等に際しまして、ご親族の皆様をお招きすることができず、人と人、共に寄り添うことが大変困難な事になってしまいました。せめて心と心、共に寄り添い共に他の幸を念じ、共にこの苦難を乗り越えて参りたいと存じます。

仏に成る



釈迦牟尼如来

いきなり仏に成ると言われると「まだ早いよ」とか「そんなにおどかさないで」など己の「死」をイメージされる人も多いと思います。しかし、仏に成ると書いて「成

仏」ジョウブツと言いますが死んで仏に成る訳ではありません。仏とは、仏陀「ブツダ」の事で「仏陀」の「仏」だけをとって、仏様と言っております。よって「成仏」とは「ブツダ」に成ると言うことであります。

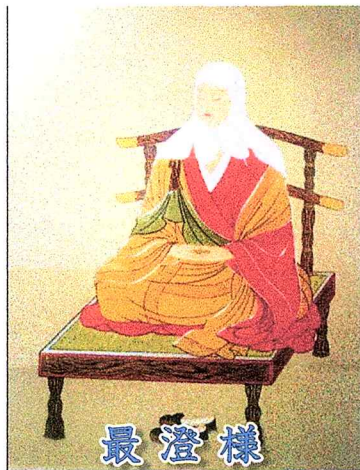
「ブツダ」とは大自然、宇宙の真理に目覚めた人であり、又その大自然の営みに身も心も全てを委ね、あるがままに生きる事のできる人であります。更に、様々な命を慈しみ、共に生きる大いなる慈愛心に目覚めると言う事でもあります。

よって「成仏」とは、この世において大いなる慈愛心の元に、己の思いを断ち切り、人々の幸を念じ、他の人々の幸を喜びとする、無条件の愛に目覚めると言うことであります。

この仏の境地を目指す人を菩薩と言います。

仏の境地は遠く深遠なる世界ではあるが少しでも近づけるようにと励み勤める。その菩薩としての御心、この慈愛心に人々は次第に寄り添うように成り、共に生きる安心も抱けて参ります。

菩薩として生きる



最澄様

仏心を育む道場として、比叡山をお開きに成られた伝教大師最澄様は弘仁十三年六月四日五十六歳でお亡くなり成られてしまいました。

最澄様は「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」このよいうな御心を抱いた人を「菩薩」と言う。と説いて下さいました。要するに己を忘れて他の幸を願う菩薩としての心、慈悲心に真の幸と、生きる事の指針を見いだせると示されたのです。

最澄様は比叡山を菩薩として生きる人材育成の道場と成るよう努めて参りましたが、桓武天皇の勅許が得られず、思い半ばで遷化されてしまいました。しかしお亡くなり成られた七日後に勅許が下り、比叡山は

正式に国家公認の菩薩として生きる人材育成の道場として認可されました。

以後千二百年の長きに渡り、菩薩として生きる最澄様の御心は脈々と継承されて、沢山の仏心を抱いた菩薩様が比叡山から各地に旅だつて行かれました。

菩薩様の御心をまねる

観世音菩薩様は、慈悲、いわゆる無条件の愛を持つて人々を救い導いてくださいます。

勢至菩薩様は、執着やとらわれ偏見の無い、物事を明らかに見極める智慧を持つて迷いの境地から救ってくださいます。

地藏菩薩様は、お坊さんの姿で飢餓、争い、苦しみ、悲しみ、この迷いの世界に自ら飛び込み、共に寄り添い見守つて下さいます。

私達も様々な菩薩様の御心をま

ねて、

自ら菩薩

として努

めて参り

たいと存

じます。

合掌
亮観拝



地藏菩薩



伝教大師1200年大遠忌記念 特別展

最澄と天台宗のすべて

全国で守り継がれてきた、
天台の宝物が一堂に！

2021年10月12日～11月21日
東京国立博物館



今秋より伝教大師最澄の一千二百年大遠忌を記念し、天台宗を上げての特別企画として「最澄と天台宗のすべて」という展覧会が開催予定となっております。

東京上野に有ります、「東京国立博物館」にて上記の日程で開催された後、九州・京都と全国を巡回される運びとなっております。

今回の特別展の為に全国各地の寺院から門外不出となっていた仏像・秘仏並びに経典、仏具等が集まる予定となっております。

聞いた話によりますと、比叡山の僧侶自ら出展される仏像等の視察に現地まで赴いているそうです。

また、大きな像を外に出すことが出来ない為、取り壊す寺院もあるとか。

今現在、東京国立博物館は緊急事態宣言に伴い臨時休館中となっておりますが、私ども天台宗の者と致しまして、秋に開催されることを見込んで、安心が確保された中、切に願うばかりです。



2050年 カーボンニュートラル

昨年の十月管総理大臣は



2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにすると言われました。

この自己質ゼロとは、私達の排出と吸収が差し引きゼロと

自然が吸収する二酸化炭素、排出と吸収が差し引きゼロと

言うことかと思えます。

あと30年と思っておりますが、すでに地球は危機的状況下に置かれていて2030年までの私達のあり方が人類存続の分岐点になるとNHKBSにて報じられていました。

又輸入に依存する日本の食材確保も大変困難に成り、危機的状況下に置かれるとも報じられておりました。

今、私達は脱炭素生活に向けて、生きる力と成る新たな価値観を見いださなければ成らない時に有るようです。

自然との共生

徳川家康も健康食として食べていた麦ごはん、昨今新たにこの麦が健康に良いと評価されております。



そこで今年はいはるファイバースノーと言う品種の、もち麦を栽培してみました。

お米と混ぜて食べてもよし。

麦味噌にしてもよし。大変楽しみです。



五月五日
サツマイモの「紅はるか」
鹿児島から取り寄せた苗と、自家栽培の苗、合わせて約七百本。移植いたしました。

来年は全て自家栽培の苗にて栽培してみたいと思います。

手探りながらも農作業を通じて、自然に優しく生きる力と成る新たな価値観を見いだし、共に生きるよりどころと成るよう努めて参りたいと存じます。

合掌
亮観拝